

校外実習についての学生の意識調査（第2報）

Investigation of Students' Awareness Concerning Off-campus Training (Part 2)

橋本 まさ子, 松本 久美子, 関崎 悦子

はじめに

校外実習は、文部科学省、厚生労働省から示されている「管理栄養士養成施設における臨地実習および栄養士養成施設における校外実習」¹⁾についての実習要領に基づいて行われ、専門科目の校外実習を栄養士課程では「1単位以上」と定めている。本学では校外実習を栄養士教育の実践の場として捉え、同実習を2単位とし、栄養士教育の充実をはかっている。

前報では²⁾、校外実習を学校給食または事業所給食1単位を経験した学生に対してのアンケートを試みた結果、多くの学生が明確な動機付けを持って実習に臨み、実習目標を現場での体験とし、8割以上の学生が達成できたことを報告した。

そこで、本研究では、後期校外実習を入院時食事療養給食施設1単位、合計2単位を経験し終えた学生に対して、校外実習が、進路に及ぼす影響と入学時の専門職志向と実際の就職状況について、平成18年3月に栄養士資格を取得した学生に対して意識調査を行い、若干の知見を得たので報告する。

校外実習の概要

本学は栄養士資格取得単位としての校外実習を、2単位と定めている。第1報では本学の校外実習第一期を、現場の栄養士・管理栄養士の指導のもとに、事業所給食または学校給食の流れや栄養指導等の実際を学び、専門職への意識の高揚を図るための内容とする校外実習の概要として報告した。

さらに、本学校外実習二期では、第一期の実習を踏まえた事前指導2回、実習終了後に実習報告会を含めた反省会、栄養士としての就職を考慮した発表会、さらに栄養士取得申請説明会として計5回の学内指導を実施している。

方法

本調査の学生は、平成17年5月16日から5月31日にかけて、学校給食施設または事業所給食施設で実施

し、さらに、平成17年11月7日から12月3日にかけて、入院時食事療養給食施設で実習を行った、生活科学科食物栄養コース2年生である。

また、栄養士申請の説明会時に、「校外実習が栄養士に関する就職に影響を及ぼしたかどうか、入学時の専門職志向と実際の就職状況」について栄養士資格を取得した学生73名に対してアンケート調査を行った。

結果

図1には、「校外実習が進路に影響したか」について調査した結果を示した。88%の学生に進路を決める参考になり、参考にならないという意見は、0%という結果を得ることができた。

図2には、「参考になった点」について調査した結果を示した。仕事内容の経験30%、仕事内容の理解70%という結果を得ることができた。

図3には、「校外実習の希望経験回数」について調査した結果を示した。2ヶ所の希望経験67%、3ヶ所以上27%、1ヶ所3%という結果を得ることができた。

表1には、「校外実習の希望施設および選んだ理由」について調査した結果を示した。希望施設では、入院時食事療養施設34名、社会福祉施設26名、児童福祉施設10名、事業所9名、学校8名の順であった。選んだ理由については、就職を考えて25名、仕事内容を理解したい24名、貴重な経験15名、献立の作り方を知りたい11名などの意見が多かった。

図4には、「栄養士の資格を取得したいと思った時期」について調査した結果を示した。短大への進路を決める時83%、本学に入学してから10%、子供の時から6%という結果を得ることができた。

図5には、「栄養士として働きたいと思った時期」について調査した結果を示した。短大への進路を決めた時42%、本学に入学してから25%、現在は働きたくない19%、子どもの頃から7%という意見を得ることができた。

図6には「栄養士の職業への興味」について調査し

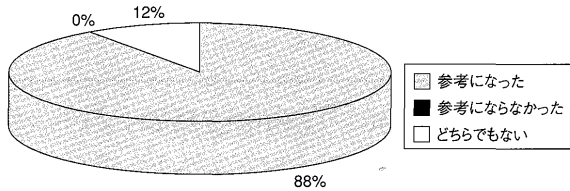


図1 校外実習が進路を決める場合参考になりましたか

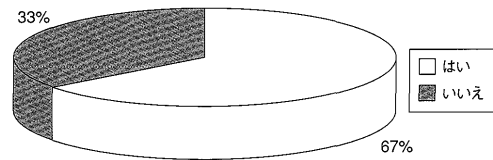


図8 栄養士の職業を選びましたか

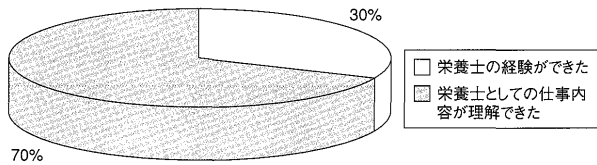


図2 どのような点が参考になりましたか

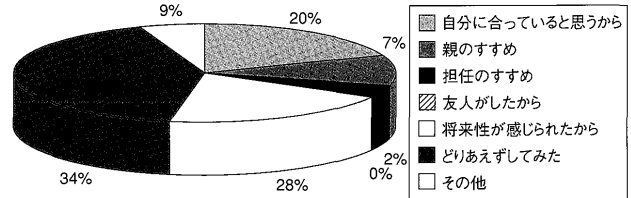


図9 選んだ理由

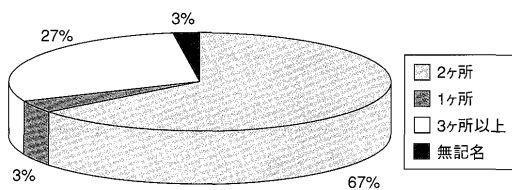


図3 校外実習は何ヶ所経験したかったですか

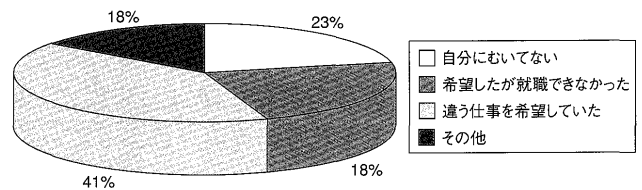


図10 選ばなかった理由

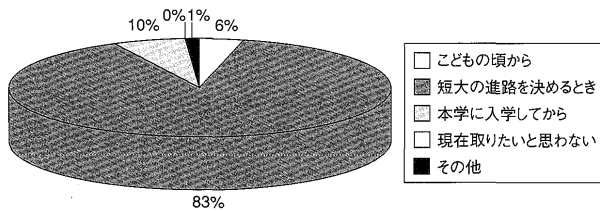


図4 栄養士の資格を取得したいと思った時期

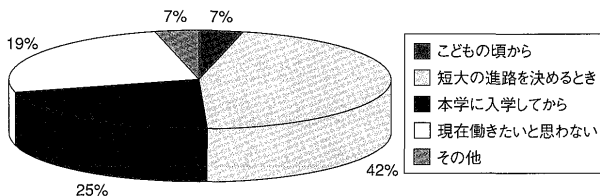


図5 将来栄養士として働きたいと思った時期は

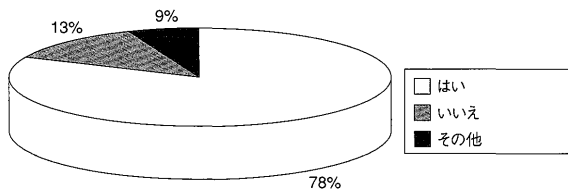


図6 栄養士の勉強をして栄養士の職業に興味がありましたか

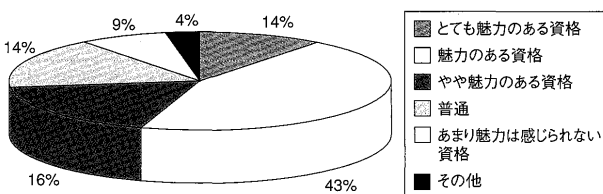


図7 栄養士の魅力についてどのように思いましたか

表1 校外実習の希望施設および選んだ理由 (名) 複数回答

校外実習の希望施設	・病院 (34)
	・社会福祉施設 (26)
	・児童福祉施設 (10)
	・事業所給食 (9)
	・学校給食 (8)
	・自衛隊 (2)
	・幼稚園 (2)
	・会社 (1)
	・レストラン (1)
	選んだ理由
・栄養士の仕事を理解するため (24)	
・貴重な経験のため (15)	
・献立の作り方 (11)	
・衛生面について (3)	
・患者さんとのふれあい (2)	
・将来管理栄養士になりたいため (1)	
・大量調理が学べるから (1)	

表2 短大の栄養士過程卒業生の就職状況

	全国	本学
栄養士業務就職者数	3,988名 40.8%	49名 67.1%
その他の業務就職者数	3,352名 34.3%	21名 28.8%
未就職者数	2,426名 24.9%	3名 4.1%

た結果を示した。学習して78%の学生が職業として興味を示したが、13%の学生には興味を得られない結果を得た。

図7には、「栄養士の魅力」について調査した結果を示した。魅力のある資格43%、やや魅力のある資

格16%，とても魅力のある資格14%，普通14%，あまり魅力が感じられない9%という結果を得ることができた。

図8には、「卒業後の進路」について調査した結果を示した。選んだ67%，選ばなかった33%という結果を得ることができた。

図9には、「栄養士の職業を選んだ理由」について調査した結果を示した。とりあえずした34%，親に勧められて28%，自分に合っているから20%という結果を得ることができた。

図10には、「栄養士の職業を選ばなかった理由」について調査した結果を示した。違う職業を希望していたから41%，自分にむいてない23%，希望しただけできなかった18%という結果を得ることができた。

表2には、「短大の栄養士課程卒業生の就職状況」³⁾について示した。栄養士業務就職者数の割合は、全国40.8%，本学67.1%と全国の割合と比較すると高い値を示した。未就職者数の割合では、全国24.9%，本学4.1%と全国の割合と比較すると低い値を示した。

考 察

本学は校外実習を栄養士教育の実践の場として捉え、実習を体験場所とおもむきを置き、栄養士教育の充実をはかっていることから、学生が自ら栄養士業務に関心を持って実習に臨んでいたと考えられる。また、本学で行っている実習回数については、学生の希望からこのままで良いものと思われるが、実習先については、検討した方が望ましいと思われた。学生は教員が考えている以上に就職を見越した実習先を考えていることも理解できた。

多くの学生が栄養士の資格を希望して入学しているが、就職になると資格取得希望者の割合より、低い値となった。しかし、2年間の学習のなかで栄養士という職業に興味を持ち、多くの学生が魅力ある資格であると考えていることも理解できた。しかしながら、栄養士の職業を選んだ理由のなかに「とりあえずした」という意見が全体の3分の1を占めてしまった。現代の若年層の志向と一致しているものと考えられるが、指導している教員としてはとても残念に思う。しかしこの点についてはさらに興味を引き、将来を考えた栄養士の養成ができるよう再検討していかなければならない問題であると感じた。

就職に対する意欲のある学生が多いことも本調査結果から理解できた。このように、校外実習が今後の進路に及ぼす影響は大きいものと考えられ、校外実

習の内容の充実が必要であり、2年間のなかで栄養士を魅力あるものと捉えていることを踏まえた今後の指導の必要性を感じた。また、卒業後の進路で、希望をしたができなかった学生に対しては、進路支援として卒業後も引き続いての対応の必要性を感じた。

謝 辞

校外実習において実習現場でお世話になった関係者の方々に感謝いたします。

引用文献

- 1) (社)日本栄養士会, (社)全国栄養士養成協会 編:臨地・校外実習の実際. 1-83, 2002.
- 2) 橋本まさ子ら:校外実習についての学生の意識調査. 桐生短期大学紀要, 16:131-133, 2005.
- 3) (社)全国栄養士養成施設協会:全栄施協月報. 13-77, 2005.